インタビュー

児童館にかかわる人たち

児童館は、多くの地域の人たちに支えられています。ここでは、児童館を支えている人、また、利用している人の声を伺いました。

支えている人たち

囲碁クラブ講師

柏田　十郎さん（加茂野町）

囲碁を初めてやる子ばかりでしたが、今は戦術的な指導もしています。

子どもたちには、「優しく」、「丁寧に」、「はっきりと」、「親切に」を心がけて教えるようにしています。ただし、始めと終わりのあいさつなど、礼儀については厳しく教えています。子どもたちが、毎週楽しみにしてくれているので、大変うれしく思っています。

碁を打っていると、総合力の向上につながってくるので、ぜひ気軽に参加してほしいですね。また、将来的には、上級生が下級生の指導をするような形が出てくればいいですね。

柏田さんは、現在6段の腕前です（7段の試験に合格しています）

親子体操指導者

松田美佐恵さん（可児市下恵土）

松田さんは、主に可児市内で子どもたちに体操やダンスを教えています

親子体操は、親子でスキンシップが図れ、タオルなどの身近な道具を使って行うので、家に帰ってからでも楽しめます。

体操中は、子どももちろんですが、お母さんたちを輪の中に引き込むことを心がけています。

子どもに対しては、できなくても褒めてあげることが大事ですね。褒めることで、一生懸命やるようになり、できるようになっていきます。

中学生ボランティア

吉田　沙織さん（西中2年・加茂野町）
福地　亜実さん（西中2年・加茂野町）
樋口由加里さん（西中2年・加茂野町）

吉田さんらは、小学校時代からの仲良し3人組。小学校6年生の時の「児童館まつり」から、ボランティアとして参加しています。

5月22日(土)に行われる「岐阜県児童館まつり『第17回子ども親の青空広場』」(以下まつり)では、「小さな手芸屋さん」というお店を出し、ビーズで作った指輪やブレスレットを販売します。3月の終わりから、まつりで使うポスターや商品作りに、楽しみながら取り組んでいます。

まつりに向けて楽しみながら作業をしています

写真左から吉田さん、福地さん、樋口さん

そんな彼女らに、まつりへの意気込みを聞いてみました。

「まつりには、たくさんの人に来てもらいたいです。一生懸命作ったので、ぜひ買ってほしいし、商品を見て、自分も作ってみたいなあと思ってくれたら、うれしいです。あと、ボランティアがまだまだ少ないので、特に小学生の子たちに来てほしいです。」

まつり当日の、彼女たちの活躍ぶりをぜひ見に行ってあげてくださいね。

利用する人たち

囲碁クラブ受講生

毎週土曜日に、囲碁クラブで囲碁を学んでいる児童たちに話を伺いました。

―どうして囲碁を始めようと思ったのですか？

前に、「ヒカルの碁」というアニメがテレビでやっていて、それを見て面白そうだったので始めました。

―囲碁を習ってみての感想は？

難しいけど、面白い。習い始めて2年たったので、少しうまくなったよ。

囲碁クラブで学ぶ児童と講師の皆さん

毎週来る子、たまにしか来れない子、また学年も違う彼らたち。でも、みんな仲良く、楽しく活動していました。

わんぱくクラブ加入者

川島恵美さん（加茂野町・上段）
堀　晴絵さん（加茂野町・下段）

昨年は、「ひよこクラブ」に加入していました。娘は「動物体操」が大好きで、喜んで踊っていました。娘もほかの子たちと何回か会ううちに慣れてきて、子ども同士で遊べるようになりました。また、下の子が小さかったのですが、ベッドを貸してもらったり、面倒をみていただき助かりました。

児童館を利用することで、いろんなお母さんと顔見知りになれ、育児の話などをして、気分転換にもなり、本当に良かったです。

川島さん親子

次男が兄としか遊ばないので、同じ年の子と遊べるようになってほしいと思い、「わんぱくクラブ」に加入しました。また、私自身も同じ年の子の母親の友達ができればという思いもありました。

児童館は、雨の日でも、楽しく遊べるところがいいですね。

堀さん親子